

分野(1)

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び
事業内容の改善方法に関する調査研究

研 究 課 題 名 : 気道炎症評価に基づく小児ぜん息患者の効果的な長期管理法と
自己管理支援の確立に関する研究

調 査 研 究 代 表 者 氏 名 : 藤 澤 隆 夫

評価コメント

- ・小児の呼気NOの基準値の作成は意義深い研究成果である。
- ・小児の呼気NOの測定条件と基準値の設定について、目処が立ったことを評価する。
- ・日本人小児の呼気NO値について多数の症例について解析を行い、妥当性のある基準値を得たことは一つの成果である。吸入ステロイドの中止基準に呼気NOが利用できないということが分かったこともネガティブデータとして重要である。
- ・NOに関してさまざまな条件で検証を行って、小児の正常値を推定しその上で病態との関連を評価している点で、評価できる。さらに、高年齢、その他の状況での確度を高めて欲しい。
- ・小学1～6年生の呼気NOの基準値を作成し、呼気NO測定の臨床応用を明確にしたことは素晴らしい成果である。乳幼児での基準値策定や、ぜん息ならびに反復性喘鳴の診断・治療への活用指針に期待する。
- ・ライフコーダーを用いたぜん息児の活動性の検討ではまだ十分な結果ではなく、今後さらなる解析が必要であろう。なお、ぜん息キャンプへの有効性とFeNOとの関連ではコントロール群が示されず、その効果判定には慎重でありたい。ICSの吸入によるNOへの影響は患者教育にも用いられる。また、行動医学的アプローチや食物アレルギー負荷試験でのNOについては今後さらに検討の必要があろう。NOの正常値等については早急の論文化が求められよう。
- ・研究の主目的を呼気NOの研究に絞っているが、あれやこれやと散漫になって結局何も得られなくなるより、このように絞った方が研究費も有効に役立てることができる。これまで呼気NOについて多くの報告があるが、呼気NOの臨床的有用性についてさらに検討を重ねて欲しい。
- ・FeNOによる気道炎症の評価のために、小学1～6年の未治療におけるFeNOの正常値を設定したことにより病的状況にあることが確認できた。正常値(全体12.9、男子15.3、女子11.6ppb)に年齢差がなく、女子より男子の方が高い数値であることが判明し、成人例までの正常値がそろったので、気道炎症の評価に客観性が増した。宇理須班との協調も考えてよい。